

授業改善推進プラン＜学年別＞

1 年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能の問題点】 ○毎週行っている漢字テストの達成率は70%前後であり、50%に達しない生徒が学年の20%程度を占めている。 【思考・判断・表現の問題点】 ○1学期の定期考査の達成率は50%を超えたが、自身の考え、意見などを言語化することを苦手とする生徒が多い。	【知識・技能の育成】 ○漢字テストで達成率20%に満たない生徒に対して、間違えた漢字を繰り返し学習するよう個別に声掛けし、学習の定着を図る。 【思考・判断・表現の育成】 ○生徒同士が互いの考えの良さや違いに気付けるような表現活動や交流活動を積極的に取り入れる。自身の考えや言葉が他者の学びに役立ったという経験を積み重ねることで、自己有用感を育む。
社会	【基礎的な知識】 ○定期テストの結果から、70%以上の生徒が基礎的な知識が定着しているとみられる。しかし、20%の生徒は達成率が50%未満であり、基礎的な知識が身につけていない。 【思考力・判断力・表現力】 ○観点別評価から、約半数の生徒が適切に判断・表現する力に課題を抱えている。特に、資料から情報を読み取り、多面的・多角的に考察し表現する力が不十分である。	【知識・技能の育成】 ○タブレット端末を活用した反復的な問題演習を行い、知識の確実な定着を図る。また、「教え合い・助け合い」を取り入れたグループ活動の機会を増やし、自分の言葉で他者に説明して貢献する経験を通して自己有用感を高めながら、知識や技能を習得する協力的な学びを推進する。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○タブレット端末を駆使した協働学習を充実させ、生徒が自ら課題を追及・解決する探究的な学習活動を取り入れていく。社会課題の把握や解決策の探究に主体的に取り組ませるとともに、多様なアイデアを互いに認め合い、地域や社会の課題に対して「自分たちにも貢献できる」という実感を持たせることで、自己有用感と「社会的な見方・考え方」を育む。
数学	【知識・技能の問題点】 ○知識・技能の定着に大きな差が見られる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○自分自身の考えを他者に表現する力に課題が生徒が一定数いる。	【技能の育成】 ○全体的な練習量が足りないので、週末課題を出し、学習習慣を確立する。 ○スモールステップで「できる」実感をもたせ、自己有用感を高める。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○自力で考える時間を与え、自力で考えることが厳しい生徒には、見通しを示し、考えさせる。
理科	【知識・技能の問題点】 ○小テストは正答率が50%以下の割合が3割である一方、定期考査の正答率は2割であった。特に小テストにおいて用語を平仮名で回答する例が目立っている。 ○実験においては細かい操作ができる生徒とそうでない生徒の差があり傍観のみに留まることがある。 【思考・判断・表現の問題点】 ○実験結果から考察を自力で記述することが難しい。 ○日常生活の中でのさまざまな現象について習得した知識をもとに自ら説明しようとする機会が少ない。	【知識・技能の育成】 ○定期考査や成績が目的の学習とならないよう、継続的かつ均一な学習習慣となるために授業の冒頭にて既習の用語に関する発問を行い、学習者自身の理解の度合いを認識させる。 ○グループにおける全員参加型の実験活動となるよう得意不得意を相互に認め、助言し合う環境にする。実験操作上の実技を通してできることを増やし自信を深め、協動的な実験活動をつくる。また、失敗も一つの教材として共有し大切な経験と認識させる。 【思考・判断・表現の育成】 ○キーワードを提示し、グループワークにおいて説明する力を習得させる。実験の目的と結果から考察を記述する練習を行う。 ○教科外で活用できる場面やトレンドを幅広く扱い、学習単元と生徒の関心とのつながりを見出し、学習の目的意識を持たせる。 【授業で既習事項に触れる】 各単元や各授業の頭には、教科書のストーリーに一通り触れる活動があるので、その中で既習事項を取り入れたティーチャートークや設問を取り入れる。 ペア活動、学び合いの時間を活用し、意見主張の場を設け、「できる」という自己有用感を育んでいく。 【家庭学習へつなげやすいテストデザインの工夫】 テストの試験範囲を示して終わるのではなく、どういう力を、どのような形式で測るのかを明確にし、自主学習をサポートする。また、定期考査以外に、小テストやパフォーマンステストなどを計画的に設定し、小さな努力を積み重ねられるようにする。
英語	【知識・技能の問題点】 単語や文法ルールの定着が弱い。定期考査では、平均点は70点を超えたが、細かな点に目を当てるとまだまだ基礎の定着が不十分である。テスト前等での取組にとどまらないよう継続的な学びを促していく。 【思考・判断・表現の問題点】 英語表現には意欲的だが、知識・技能の定着不足が表現の障害となっている。	【知識・技能の育成】 ○各単元や各授業の頭には、教科書のストーリーに一通り触れる活動があるので、その中で既習事項を取り入れたティーチャートークや設問を取り入れる。 ペア活動、学び合いの時間を活用し、意見主張の場を設け、「できる」という自己有用感を育んでいく。 【家庭学習へつなげやすいテストデザインの工夫】 テストの試験範囲を示して終わるのではなく、どういう力を、どのような形式で測るのかを明確にし、自主学習をサポートする。また、定期考査以外に、小テストやパフォーマンステストなどを計画的に設定し、小さな努力を積み重ねられるようにする。
美術	【知識・技能の問題点】 ○絵具を扱う際に水分量を調節するのが苦手な生徒が一定数いる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○デザインがなかなか思いつかないため、制作の時間が足りない生徒が一部いる。	【知識・技能の改善点】 ○各クラスに雑巾をつるし、机間指導の際に筆洗、パレット、雑巾を使った水分調整の方法を粘り強く繰り返し指導をしていく。 【思考力・判断力・表現力の改善点】 ○見本とともにタブレットや資料集、その他参考資料を用い、アイデアの幅が広がるよう工夫をする。
音楽	【楽曲の鑑賞力】 ○定期テストの状況から、楽曲の構成やその背景に関する知識が、実際の音楽の聴き取りと十分に紐づいていない。 【歌唱における合唱力・表現力】 ○歌唱時の基本姿勢の維持や、他パートの聴への意識が希薄になりがちである。 ○教員の示した表現法が一時的・部分的な実践で終わってしまい、曲全体を通した表現として定着させる指導が必要である。	【楽曲の鑑賞力に対する改善点】 ○音源をポイントに絞って聴かせ、印象とその要因をセットで記述・共有させることで、「自分の捉え方が深まった」という手ごたえを感じさせる。 【歌唱における合唱力・表現力に対する改善点】 ○聴き合いの視点を1点に絞り、表現の理由を問いかけながら歌わせることで、「自分の歌声が全体の響きや表現づくりに寄与している」という実感を持ちやすくする。
保健体育	【対話的な学び】 ○一学期、体づくり運動、陸上競技、水泳競技を通じて「グループで話し合ったり、学び合ったりする時間がある。」にあてはまるに回答した生徒は35.8%、ややあてはまるに回答した生徒は36.8%という結果になった。全体の質問に比較するとあてはまるに回答した生徒の割合が低い。自己有用感が全体的に低い。 【ICT活用】 ○「授業でタブレットを使用する。」に、あてはまるに回答した生徒は10.5%、ややあてはまるに回答した生徒は38.9%という結果になった。授業中のICT活用に注力できず、日常的・本格的な活用が定着していない。	【対話的な学びの充実】 ○技能の定着に注力しすぎないよう、各単元でグループワークやペアワークの機会を設ける。ペアワークは保健分野、体育分野問わず、毎授業に取り入れる。また、自信につながるような声掛けを継続する。 【授業内のICT活用の充実】 ○思考判断表現の評価項目で作戦会議を目的として、各単元におけるタブレット使用の機会を設ける。ただし、動画撮影等は個人情報保護の観点から慎重に取り扱う。
技術	【創造的な力】 ○作品の完成度を高め、実用的なものを製作した経験の少ない生徒であるため、自分の力で問題解決することが難しい生徒が多い。 ○グループで学び合いを通し、お互いに助け合いながら作品を完成させることが未経験な生徒が多い。	【創造的な力】 ○設計図の読み取り（2次元的な設計図を3次元的に読み取る）、部品加工など、工作機械を積極的に活用し、指導・助言を与えながら、正確で実用的な作品の完成を目指す。 ○個々の生徒の特性を生かし、グループ内で積極的に学びあいを通すことで、自己有用感を高め、作品の完成度および満足度を高めることを目指す。
家庭	【思考・判断・表現】 ○既習事項を複数組み合わせたり、実生活の場面に活用したりする応用的な課題では、知識をどのように活用すればよいか判断することに課題が見られる。	【生活場面と結び付けた課題設定】 ○基礎的な知識の確認を行った上で、実生活に即した課題や複数の既習事項を活用する課題を設定する。「なぜその方法を選んだのか」「他の方法と比べてどちらが適切か」など理由を考えさせる発問を意図的に取り入れる。また、「○○さんのアイデアが参考になった」など、生徒同士が認め合う場面をつくる。

授業改善推進プラン＜学年別＞

2 年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能】 ・1学期定期考査および漢字テスト等の達成率は50％を超えているが、達成率20％に満たない生徒が学年で2割程度いる。 【思考・判断・表現】 ・1学期定期考査の達成率は52％だったが、自己の意見や考えに自信がもてず、発表することに対して苦手意識を抱いている傾向がある。	【知識・技能の育成】 ・小テスト、定期考査で達成率20％に満たない生徒に対して、個別の課題を与え、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 【思考・判断・表現の育成】 ・他者との交流活動を通して、自己の考えが変容する楽しさを実感できるように、ワークシートの形式を工夫する。 ・意見発表、スピーチ、創作活動等の機会を定期的・系統的に設定し、互いの良さを評価し合う場面を積極的に設定する。
社会	【知識・技能】 ○1学期の定期考査では、知識・技能の全体の達成率49.6%であった。2割の生徒が達成率が30%未満である。 【思考力・判断力・表現力】 ○1学期の定期考査では、思考・判断・表現の全体の達成率が45.8%であった。5割の生徒が達成率が50%未満である。	【知識・技能の育成】 - 毎回、前時の振り返りを行い、知識の定着につなげる。授業の前半15分を使って、本時の予習を教科書で調べながらワークシートに記入する。毎時間、少してあるが全員に発表する場を設定し、授業の流れをつくることで自己有用感の向上につなげる。技能に関しては、ワークシートの内容に資料やグラフの読み取りを加える。定期的に小テストを行う。 【思考力・判断力・表現力の育成】 - 毎回、メインとなる質問を設定し考えさせる場面をつくる。 - 時間にゆとりがあるときに、一つのテーマについて、個人の意見を踏まえた上で、班ごとに話し合いの時間を設ける。個人の意見を述べることで自己有用感を高めることにつなげていく。
数学	【知識・技能の問題点】 ○知識は、身に付いていたものの、技能は、定着していない生徒がいる。 【思考・判断・表現の問題点】 ○自分の考えを表現する力は、昨年に比べて無回答は減ってきている。学んだ知識を活かし、適切に判断、表現する力が付いてきている。	【技能の育成】 ○全体的な練習量が足りないので、家庭学習で毎日、目標時間を決めて、計算練習を行わせる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○始めの2分で自力で考える、自力で考えることが厳しい生徒には、見通しを示し、考えさせる。次に、2人組または4人組で教え合い、学び合う時間を取り、定着を図る。
理科	【知識・技能】 ○1学期の定期考査では、知識・技能の全体の達成率が約60%であった。一方で、達成率が2割に満たない生徒もいた。 【思考力・判断力・表現力】 ○1学期の定期考査では、思考・判断・表現の全体の達成率が約45%であった。実験結果や考察をまとめることが苦手な生徒がいる。	【知識・技能の育成】 ○演習問題や小テストを行い、知識・技能を定着させる。 ○実験器具の正しい使い方を理解し、科学を学ぶ楽しさを実感しながら、友達と協力して安全に実験・観察を行うことができるようにする。 【思考・判断・表現の育成】 ○実験・観察を行い、結果から分かることを考察する時間を設ける。
英語	【知識・技能および思考・判断・表現】 ○2年生になって、英語で表現する際に、これまで学習した内容を複合的に使う活動が増えた。それによって、これまでは1時間から1単元内の学習さえ理解していれば取り組むことができた単元のゴールが、非常に高い目標と感じる生徒が増えた。	○単元を通して、スモールステップの授業作りを重視し、復習から新しい内容へとつなげ、小さな「できた」を積み重ねることで、生徒の取り組む意欲を高める。 ○統合的な活動の事前や途中で、ヒントや参考例を与え、真似たり、少し言い換えたりすることでも活動に参加できるように工夫をする。
美術	【知識・技能の問題点】 ○色鉛筆で着色する際、色相環を頭の中でイメージしながら色を選べない生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○素材の強度や、自分の技量を越えた案を採用してしまうため、本番の作品に入った際に苦勞をする生徒がいる。	【知識・技能の改善点】 ○色を扱う題材の導入時には1年次に学んだ色の三要素を復習した上で取り組ませる。 【思考力・判断力・表現力の改善点】 ○アイディアスケッチの段階で素材に触らせ、強度をイメージさせる。細かい案は、省略や単純化した形の例をこちらから提示する。
音楽	【楽曲に対する理解】 ○作詞者・作曲者の意図や背景、歌詞の意味などの基礎的な知識について、十分に定着していない傾向がみられる。 【表現力】 ○鼻濁音の意識や抑揚・強弱の付け方など、楽曲に応じた歌唱技法や表現を主体的に試みようとする姿が少ない。	【楽曲に対する理解への改善点】 ○毎時間の活動で背景や歌詞に短く触れ、気づきを共有・認め合うことで自己有用感を育みながら、知識の定着を図る。 【表現力への改善点】 ○発声時の鼻濁音チェックをルーティン化し、上達した変化をその場で価値づけることで、スキル向上を実感させる。 ○強弱などの目的を1つに絞って段階的に実践・評価し、「自分の歌声が全体の表現に貢献している」という自己有用感を高める。
保健体育	【思考・判断・表現】 ○定期考査や学習カードの面から全体的に考える能力が低い。実技面での自身の課題を見つけ、その改善策を自ら考え、技能の向上につなげていく力が足りない。 【主体的に取り組む姿勢】 ○授業開始に間に合わない、体操に真剣に取り組めない、忘れ物が多いなど授業規律に関する面で意識が低い生徒が多い。	【思考力、判断力の定着】 ○体育分野、保健分野とわずチームでの活動、ペアワークを中心に授業を進め、他者の考えを自身に取り入れる時間を作る。他者の意見を尊重し、お互いを高めあうことで自己有用感と思考力の定着、さらには技術力の向上につなげていく。 【授業規律に対する意識の改善】 ○授業内でのルールを毎時間明確にしていき生徒全員の共通認識を高め、授業規律を定着させていく。
技術	【エネルギー変換の技術】 ○製作等の実習を通して、科学的な知識や考え方を理解させ、学習したことを生活に生かそうとしていくことが課題である。	【エネルギー変換の技術】 ○電気機器の保守点検など作業実習だけでなく、その裏付けとなる科学的な知識をくり返し伝えたり、ICT機器などを利用したりして自ら学ぼうとするよう指導をする。 ○製作実習等、遅れがちな生徒に対しては授業で使用したスライドなどをクラスルームに貼り付けていつでも閲覧できるようにしておく。
家庭	【知識・技能】 ○学習内容の定着が十分でなく基礎的な知識・用語についても定着に課題がある。	【授業の導入で基礎知識の確認】 ○前時の学習内容を確認する短時間の復習を取り入れ、基礎的な知識・用語を繰り返し確認することで定着を図る。また、実習では、得意・不得意に関係なく一人で担当する工程を設定し、役割を果たす経験を積ませる。

授業改善推進プラン＜学年別＞

3年	課題分析	授業改善策
国語	【情報の扱い方に関する問題点】 ○与えられた情報の内容を理解することはある程度できているが、情報と情報の関係性等を理解する力が不十分である。 【韻文等における表現技法に関する問題点】 ○韻文等に用いられている表現技法に関して、基本的な内容は理解できているが、それぞれの技法の効果に関して理解できてない生徒が半分程度見られた。	【複数の情報を正しく読み取る能力の育成】 ○長文読解の練習問題等において、具体と抽象など、情報と情報との関係を正しく読み取る問題練習を計画的に実施する。 【生徒の自己有用感を向上させる活動】 ○他者との交流活動を通して、自己の考えが容れられる楽しさを実感できるよう、ワークシートの形式を工夫する。 ○意見発表、スピーチ、創作活動等の機会を定期的・系統的に設定し、互いの良さを評価し合う場面を積極的に設定する。
社会	【思考力・判断力・表現力の育成】 ○資料の読み取りに課題があり、授業の黒板や提示する資料についてより分かりやすいものにする工夫が必要。 ○多面的・多角的に事象を捉え、それらのことを整理して論理的に表現する力をつける。	【思考力・判断力・表現力の育成】 ○授業内でできるだけ資料を「読み取る」場面を設定する。既習内容や複数資料とのつながりを意識しながら読み取らせることを伝える。 ○スモールステップの作業を積み重ね、集めた情報を論理的な文章や思考に再構築する時間を、単元ごとに設ける。
数学	【思考力・判断力・表現力の育成】 ○自らの考えを他者と話し合い、深めることはできているが、解答を記述することに課題が見られる。 ○図形領域において、既習の知識を組み合わせることに課題が見られる。	【思考力・判断力・表現力の育成】 ○話し合い活動中に精錬された考えをノート等へ書き、まとめる時間を確保する。その上で、まとまった考えを発表する時間を設ける。さらに、それぞれの考えのよさを見つけ、問題解決に活用できるようにする。 ○言葉の意味を確認したうえで、知識が複数要求される問題に対し、個からグループという流れで十分に考える時間を設ける。
理科	【思考力・判断力・表現力の育成】 ○実験の結果を根拠として論理的に考察を行うことに課題がある。 ○現象・事象を対比して説明、表現することに課題がある。	【思考・判断・表現の育成】 ○対比や論理的考察の精度を上げるため、単元のまとめや実験前に既習用語の関係性を整理するマインドマップの作成を実施し。作成したマップをもとにペアやグループで相互に解説し合う活動を取り入れる。正しく用語を使って現象を説明することで基礎的な語彙力・理解力を補強するとともに、自分の説明で友達を理解が助けられた経験を通して他者貢献感や自己有用感を高させる取り組みを実施する。
英語	【まとまりのある英文を書く】 ○テーマに合った、まとまりのある文を書く力を向上させる。 【英文を読んで、概要をつかむ】 ○長文を読んで、おおまかな内容が理解できるようにする。	【まとまりのある英文を書き、交流する機会の設定】 ○さまざまなテーマで、まとまった英文を書く時間を設定する。また互いの文を読み合い、よいところを取り入れるようにする。 【多くの英文を読む時間の設定】 ○たくさんの長文を読むことを通して、読解力を養う。また教え合いをさせ、わからないものを質問しやすい機会を設定する。
美術	【知識・技能の問題点】 ○丸刀、三角刀などの押して彫る彫刻刀に比べて、切り出し刀を使うのが苦手な生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○彫刻を制作する際、アイデアスケッチの段階で立体的に案を考えられない生徒がいる。	【知識・技能の改善点】 ○切り出し刀の指導の時間は多めに取り、安全かつ力の伝わりやすい持ち方や刃の角度などを繰り返し伝える。 【思考力・判断力・表現力の改善点】 ○彫刻の参考作品を見せたり、断面図などを描いて示しながら、できるだけ立体的にイメージできるようにする。
音楽	【読譜能力】 ○細かな音程の差や類似したリズム・パターンの視認・識別が難しく、毎時間の口頭解説だけでは十分な定着に至っていない。 【表現力】 ○特に歌唱活動において、楽曲の情景や世界観を思い浮かべ、それを強弱などの具体化された表現に反映させることが困難である。	【読譜能力への改善点】 ○楽譜の色分けや提示工夫により、違いに気づく体験を重ねさせ、自力で分かったという自信を持たせる。 【表現力への改善点】 ○情景と強弱の関係を楽譜に書き込ませ、「どんな情景を描くための表現か」を意識させることで、楽曲の良さを表現できているという手ごたえを感じさせる。
保健体育	【主体的に学びに向かう態度】 ○授業規律の面などは昨年から比べ大幅に改善されたため、今年度は純粋に体育や運動の技能向上に力を注ぐことができる状況にある。 【知識・技能】 ○1年間掛けて基礎体力の向上に向けた運動を継続してきた成果は現れているが、受験期や部活動の引退により体力の低下が予想される。	【授業規律の確立】 ○引き続き、ごまかしてやり過ごそうとか、その時が楽しければよいといった利己的な感覚を改善すべく、運動のより深い楽しさを体感させる中で、物事にきちんと取り組むことや、ある一定の規律の中で行う必要性を身に付けさせるとともに、真摯な姿勢が見受けられた際へのフィードバックを即時行い、自己有用感の向上につながる評価とする。 【基礎体力や基礎技能の向上】 ○取り組んできた補強運動や基礎技能向上の取り組みにより、変化が現れた部分を大きく取り上げ、自身の努力や取り組みに対する成果を実感させる中、自己有用感を高める。
技術	【情報の技術】 ○プログレス技術の活用を通して、実社会におけるものづくり【双方向性のあるコンテンツ】や、情報モラル、個人情報保護、情報セキュリティなど技術と情報との関わりについて興味・関心をもたせることが課題である。	【情報の技術】 ○ICT機器等での資料・映像を活用し、ものづくりや情報について学習させる。プログレス技術の活用で生活に身近な題材を取り上げ、ICT機器等を利用して自ら学ぶとするよう指導する。 ○Web上のコンテンツ（NHK for schools）などを利用し、家庭での補充学習に役立てる。現在の技術の課題や問題点などについて考えを深めさせる。
家庭	【主体的に学習に取り組む態度】 ○学習した知識がテストで正答するためのものにとどまる傾向があり、身につけた知識を実生活の課題に活用したり、複数の知識を関連付けて考えたりする力をさらに伸ばす必要がある。	【知識と生活場面をつなげる】 ○既習事項を実生活の場面で活用する課題を意識的に設定する。「自分ならどうするか」「どの方法が適切か」などの発問を取り入れ知識を根拠として自分の考えを説明する活動を増やす。また、「できたこと」「工夫したこと」を振り返らせ、具体的に認めていく。